

THE JOURNAL OF OHARA INSTITUTE FOR SOCIAL RESEARCH

No. **775** May 2023

Special Issue : Labor Issues at Social Welfare Facilities (1)

- Introduction to the Special IssueFUJIWARA Chisa
 The Labor Issues of Children's Home Employees and the Role of Labor Unions
 HORIBA Junya
 A Study on Salary Levels and Working Environments of Maternal and Child Living
 Support Facilities Staff.....MUTO Atsushi
 "Working Styles" at Welfare Sites as Seen from Relief Facilities(Kyugo-Sisetsu)
 MATSUKI Hiroshi

Article

- Unity beyond Faction and Occupation :
 A Case Study of Korean Railway Workers' Union Park Joonhee

Book Reviews

- MIYASHITA Saori, *Work and Life in Small Family Businesses: Reflections of
 Gendered and Patriarchal Post-war Japanese Society* SAKATA Hiromi
 ABE Takeshi, *History of the Japanese Cotton Industry: From the Tokugawa Period
 to the Outbreak of the Second Sino-Japanese War* Janet Hunter

Bibliography of Publication on Labour and Social Issues

The Institute's Activities in January 2023

OHARA INSTITUTE FOR SOCIAL RESEARCH

4342, Aiharamachi, Machida-shi, Tokyo, 194-0298, Japan

web site: <https://oisr-org.ws.hosei.ac.jp/>

e-mail: oharains@adm.hosei.ac.jp

編集(兼)発行人

法政大学大原社会問題研究所

〒194-0298 東京都町田市相原町4342 TEL 042(783)2305

定価1,018円(本体926円+税10%)

年間購読 12,000円(税込)

大原社会問題研究所雑誌

775 2023.5

【特集】社会福祉施設の労働問題(1)

- | | | |
|---------------------------|------|----|
| 特集にあたって | 藤原千沙 | 1 |
| 児童養護施設職員の労働問題と労働組合の役割 | 堀場純矢 | 2 |
| 母子生活支援施設職員の給与水準と待遇に関する諸課題 | 武藤敦士 | 22 |
| 救護施設から見た福祉現場での「働き方」 | 松木宏史 | 41 |

■論文

- | | | |
|--|-------|----|
| 韓国鉄道労働組合の職種・政派間団結
——2000年代の労使関係を中心に | 朴 峻 喜 | 53 |
|--|-------|----|

■書評と紹介

- | | | |
|-------------------|-------------------|----|
| 宮下さおり著『家族経営の労働分析』 | 坂田博美 | 68 |
| 阿部武司著『日本綿業史』 | ジャンネット・ハンター/榎 一江訳 | 73 |

社会・労働関係文献月録 79

所 報 2023年1月 81

発 行／法政大学大原社会問題研究所

発売所／法政大学出版局 3330-55001-7710

〒102-0071 東京都千代田区富士見2-17-1

TEL 03(5214)5540

郵便振替口座 00160-6-95814

日本労働研究雑誌

No.753 2023年4月号

定価 937円(本体852円) 年間購読 11,244円(税込)

特集「現在の労働問題を考える上で改めて読んでおきたい文献」

- 雇用制度改革
ドーア『イギリスの工場・日本の工場』 山下充/ピオリ=セーブル『第二の産業分水嶺』 梅崎修/ゴードン『日本労使関係史』 田中秀樹/ジャコービ『雇用官僚制』 橋場俊展/キャペリ『雇用の未来』 服部泰宏/ホール=ソスキス『資本主義の多様性』 山内麻理/菅野和夫『新・雇用社会の法〔補訂版〕』 高橋康二
- 賃金と所得
石川経夫『所得と富』 楡井誠/斎藤修『賃金と労働と生活水準』 神林龍/石田光男『賃金の社会科学』 佐野嘉秀/フォルガー=コノフスキー=クロパンツァーノ『業績評価におけるデュール=プロセス(法の適正手続き)』 林洋一郎/フリーマン=メドフ『労働組合の活路』 鈴木誠
- 技能形成
小池和男・猪木武徳編『人材形成の国際比較』 太田聰一/レイヴ=ウェンガー『状況に埋め込まれた学習』 石山恒貴/ホール『プロティアン・キャリア:生涯を通じて生き続けるキャリア』 古田克利/猪木武徳『経済思想』 瀧井克也
- 男女の働き方
間宏『経済大国を作り上げた思想』 小倉一哉/大沢真理『企業中心社会を超えて』 金野美奈子/プリントン『女性と経済的奇跡』 大石亜希子/ハキム『21世紀の仕事と生活様式の選択』 西川真規子/マッキノン『セクシャル・ハラズメント・オブ・ワーキング・ウイメン』 山崎文夫
- 企業経営と人事
岩出博『戦略的人材資源管理論の実相』 西村孝史/ウルリッヒ『MBAの人材戦略』 須田敏子/ハリソン=クライン「違いは何か?—組織における多様性の構成概念」 谷口真美/エリー=トーマス「職場における文化的ダイバーシティ」 谷川智彦/ミンツバーク『マネジャーの仕事』 松山一紀

独立行政法人 労働政策研究・研修機構

〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23

☎ 03-5903-6255

「法政大学大原社会問題研究所叢書」

「論争」の文体

日本資本主義と統治装置

法政大学大原社会問題研究所、長原 豊、ギャヴィン・ウォーカー 編著

1920年代から30年代にかけてこの国のマルクス派を二分して闘われた〈日本資本主義論争〉とは、政治の文体あるいは物語をめぐる衝突であった。再生産論、革命論、国家論、そして天皇制——中断され、閉じられた論争の鍵概念をいまいちど現代思想の方法論的雑踏のなかに差し戻し、資本の〈内部—外部〉を分析する諸論考のもとに新たな言説装置として再構築する試み。

■ A5判・上製・430頁/5280円

■ 主要目次 ■

- はじめに——方法の問題と「論争」の始点
- 第一章 方法の問題——層序論的接近(長原 豊)
- 第二章 「論争」の始点——〈帝国〉主義(長原 豊)
- I 再領土化装置としての国家——再生産される「外部—他者」
- 第一章 危機・恐慌と植民地主義——併合される外部(ケン・カワシマ [沖 公祐訳])
- 第二章 新たな歴史学(グローバル・ヒストリー)と「論争」の死角——抹消される外部(平野克弥)
- 第三章 被差別部落という装置と原国家——側置される外部(友常勉)
- 第四章 「女性」の不在と「惨害の茅屋」——嵌入する外部(梶一江)
- II 脱領土化装置としての資本——再生産する「内部—自己」
- 第一章 「論争」の理論的地平——再生産論批判の観点から(沖 公祐)
- 第二章 「古来もの」と残滓——「論争」の「時政学」的再指定(ギャヴィン・ウォーカー [根岸海馬訳])
- 第三章 資本主義の〈鹵獲—捕獲〉装置——資本と天皇—制(長原 豊)
- III 「論争」の予—後(プログノーシス)——批評(クリティーク)と史料(アルシーヴ)
- 第一章 革命の代補——日本資本主義と「近代の超克」(位田将司+立尾真士+宮澤隆義)
- 第二章 〈歴史的なこと〉の寓喩(アレゴリー)——「論争」の国際的再指定のために(ギャヴィン・ウォーカー [中村勝己訳])
- 謝辞(長原 豊)

法政大学出版局

〒102-0073 東京都千代田区九段北 3-2-3 https://www.h-up.com/
TEL 03-5214-5540/FAX 03-5214-5542 ※表示価格は税込みです

法律文化社

京都市北区上賀茂岩ヶ垣内町71 *税込価格
https://www.hou-bun.com/

野田真里編著 新型コロナ禍が浮き彫りにしたSDGsの課題と今後を考える。①「取り残される人」は誰か、②「5つのP」の課題と取り組み、③パートナーシップとアクションの3課題に沿って展開。
●3200円

SDGsを問い直す ●ポスト/ウイス・コロナと人間の安全保障
●4950円

勝田美穂著 教育基本法改正や「道徳の教科化」など制度構築・変更の動向を、制度とアイデアの枠組みに位置づけ、中央政府のアクターと機関に焦点をあて分析。官邸主導体制により政策形成にどのような変化が生じたかを明らかにする。
●3740円

子どもと家族の貧困 ●学際的調査からみえてきたこと
松本伊智朗編著 自治体と大学による大規模調査から、生活の実態を多面的に分析、考察。貧困研究、教育心理学・社会学の専門家が協働で問題の構図を再考する。
●3740円

教育政策の形成過程 ●官邸主導体制の帰結
2000~2022年
●3740円

ひとり親家庭はなぜ困窮するのか ●戦後福祉法制から権利保障実現を考える
金川めぐみ著 ●A5判/238頁/5280円

- 序 章 本書の目的と構成
- 第1章 日本におけるひとり親家庭研究の動向
- 第2章 ひとり親家庭の把握と支援施策の動向
- 第3章 母子及び寡婦福祉法成立までの関連法制化過程
- 第4章 母子家庭の母及び父子家庭の父の就業の支援に関する特別措置法成立までの関連法制化過程
- 第5章 法における家族の眼差しと、ひとり親家庭の視座
- 第6章 「福祉の権利化」の視点からみたひとり親家庭の福祉法政策
- 第7章 ひとり親家庭の福祉法政策における今後の方向性
- 終 章 本書での結論と今後の課題
- 補 論 コロナ禍におけるひとり親家庭対策の素描

国国会議録にみる国の家族観と「福祉の権利化」の視点から福祉法制の変遷過程を考察。政治哲学の人間像とケアの倫理を基に「公的ドゥワリア」の概念を提示し、今後の法政策のあり方を検討。

労働の科学

Digest of Science of Labour

2023年3月号
78巻3号

3

定価 1,200円(税込)
年間購読 13,000円(税込)

【特集】〈レポート〉G7倉敷労働大臣会合開催記念シンポジウム

- ◆倉敷市と連携して開催する「持続可能で働きがいのある社会づくりなどをテーマにしたシンポジウム」をレポート ……<編集部>
- ◆凡夫の安全衛生記・73「後輩への一言」 施策を進める姿勢と考え方 ……福成雄三
- ◆漂流者たち—クミジヨの肖像・24 ……本田一成
- ◆ILOインド南アジア産業保健通信・3 ……川上 剛
- ◆芸能従事者の今・19 ……森崎めぐみ
- ◆「#教師のバトン」で伝わる教職員の過酷な勤務環境・21 ……藤川伸治
- ◆歌舞伎で生きる人たち・19 ……湯浅晶子
- ◆巻頭言 ……坂本恒夫
- ◆労研アーカイブを読む・86 ……岸田孝弥



〒151-0051 渋谷区千駄ヶ谷1-1-12 桜美林大学内3階 公益財団法人 大原記念労働科学研究所
TEL: 03-6447-1435 FAX: 03-6447-1436 HP: http://www.isl.or.jp/